

【 9月26日の猛烈な台風 】

最近50年間に日本列島を縦断した猛烈な台風は4つ。

1954年洞爺丸台風、58年狩野川台風、59年伊勢湾台風及び91年に広島県安芸の宮島や青森のリンゴ農家に大きな被害を与えた19号台風だ。何れも9月25～27日に来襲した。

洞爺丸台風では、青函連絡船と貨物船など5隻が沈没。洞爺丸一隻だけの死者・行方不明者数は、国鉄対策本部の調べでは1,155人。海難事故での遭難数は1912年に大西洋上で冰山と衝突後沈没した豪華客船タイタニック号に次ぐ世界2位の大惨事になった。

26日、洞爺丸は函館港の埠頭で待機中。夕方になり強風が弱まり、船長が航行可能と判断出港した。しかし、その直後に天候が急変し、七重浜海岸の沖で座礁転覆した。

船長判断の出港から遭難に至った経緯に関し、気象の面から検証し、二つのことが推測される。

函館港付近が台風の日に入り、一時的に風速が衰えた時に出港した。直後、吹き返しの暴風で座礁。

台風前面の温暖前線が北上して一時的に風雨が弱まった現象を、台風通過と見誤って出港。直後、台風本体の暴風雨で遭難。

洞爺丸台風は鹿児島県に上陸する頃から時速100km以上の猛スピードで日本海を北上した。渡島半島の西沖で、急速に減速し前線を伴った温帯低気圧に変化した。

その特徴は次の通り。農作業時の参考にして欲しい。

進行速度の速い台風は、上陸後も衰えず強風に伴う被害が大きい。

台風の危険半円は台風の進行方向の右側で、本台風の場合、函館は強風域となった。

台風が温帯低気圧に変わる時、再発達することがある。

洞爺丸台風やリンゴ台風は、このケースに該当する。

(気象情報システム株式会社 高津敏)